

変化を楽しむ「決めないキャリアパス」のススメ

杉坂恵子 (株式会社化学同人 編集部 月刊「化学」副編集長)

仕事の内容とやりがい

化学雑誌をつくっています。何かすごい成果を発表されたり、おもしろい研究を続けておられる化学者にその紹介記事を書いていただき、読みやすくする工夫(編集作業)を施して、化学好きの老若男女にお届けする仕事です。学術論文や新聞記事には載らない研究のインサイドストーリー(裏ネタ、秘話)や自身の研究哲学も披露していただき、息づかいと情熱、化学の醍醐味が伝わる雑誌を目指しています。以前とある院生さんに、「月刊『化学』の記事を読んで今の進路を志した」とお聞きしたときは、嬉しくて、つい涙腺が……! そんな毎日です。

進路決定のきっかけ

高校時代は歴史と生物との両方に惹かれていたので、実は文系志望でもありました。最終的には、草木の営みをもっと学びたいと考えて農学部へ進学し、研究者としての可能性を夢見て大学院に進みました。しかし、そこで第一線の研究に触れるにつれ、「私は“伝える側”に立ちたい」という想いがムクムクと……! そして決定的瞬間は、修士1年の秋に聞いた恩師の講演。「こんなワクワクする話、科学者の世界だけじゃなく、家族にも友達たちにも伝えなきゃ、モッタイナイ!」。講演後、さっそく恩師に相談し、理系編集者の道を目指しはじめました。

仕事と生活のバランス

ON/OFFを明確に線引きしてみた時代もあれば、仕事以外は封印!と意気込んだ時代もあります。前者は「線引き」自体が面倒だとわかって却下、後者はしんどくなって中止。現在は、さいわいシングルで時間に自由が利くこともあり、あまり境界を決めつけず、その瞬間、そのチャンスに身を委ねています。でも、これも来年には変更になっているかもしれません。要は、無理をせず、自分自身を実験台にして試行錯誤を楽しみ(これぞ理系女子?)、将来オバアチャンになるころまでにMy Bestを見つけられれば上出来かな、と思います。

進路選択に対してのメッセージ

今、強い信念や全力投球できる夢がないという人は(もちろんそれでOK。私も同じです)、自分は何が得意(不得意)か、何ができる(できない)かを決めつけず、偶然や人の縁などといった「流れ」に身を任せてみるのも一つです。流れ着いた港でがんばってみる。するとそこが自分の楽園(天職)かどうか見えてくるし、新しい航路や切符も転がり込んでくると思います。私もまだ航海の途中。今これを読んでくださっているアナタと、どこかの港で遭遇するかもしれません。そのときは声をかけてください。楽しみます。

<杉坂恵子(すぎさかけいこ)プロフィール>

近畿大学農学部を卒業し、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科修士課程修了後、株式会社化学同人に入社。書籍編集を経て月刊「化学」担当。学部では植物生理学を、大学院では植物細胞生物学を専攻したのに、え?化学の雑誌ですか……??と思いつつ、仕事を通じて化学(科学)の多士済々と出逢う毎日を楽しんでいるうちに、気づくと、早10年を迎えていました。

